

♡エトワール&アムール物語♡

我が家には、現在27歳の長男が10歳、22歳の次男が5歳の時に飼い始めたミニチュアダックスの男の子のエトワール（星）と、その半年後に飼い始めた同じ犬種の女の子のアムール（愛）がいました。フランス滞在から帰国してまもなくの時期だったので、フランス語の名前をつけました。

なかなか授からなかった末っ子を迎えるような気持ちで、ワンちゃんを飼うことを家族で相談したのです。エトと出逢ったのは生後半年の時、ダックスと言えば胴長短足が特徴なのですが、エトは頭が大きく胴も足も短くてちょっとバランスの悪い見た目だったからか、飼い主がなかなか見つからないでいたのです。でも私は不恰好にチョコチョコ歩く姿を愛らしい！と感じ、チョコレート色の人懐っこいエトに一目惚れしました♡

エトが家族の仲間入りをして数ヶ月、思いっきり一緒に遊べる仲間がいたらなああと、同じブリーダーさんにエトと仲良くなれそうな子犬をお願いしたところ、お母さんを交通事故で失ったばかりのキツネ色の生後3ヶ月の女の子の写真が送られてきました。アムの生い立ちのこともあり、エトを連れてすぐに会いに行ったところ、2匹は磁石で引かれ合うようにくっつき、相性も抜群...即決定でした！鼻の色が濃くならず子ブタちゃんのような顔が愛らしく、アムールと名付けました。お母さんが恋しくてキャンキャン鳴けるアムのことを、エトはひたすらなめてあげました。

2匹が連れてきてくれたのか、その後に思いがけなく人間の女の子を授かったのです！ほぼ40歳で出産した待望の末っ子の子育ては気持ち的にはばあばの心境、しかし体力的にはきつく、ワンちゃんと赤ちゃんのお世話はなかなか大変、乳母車に2匹分のリードをつけての散歩が精一杯でした。でも2匹一緒だったお陰で、エトとアムが仲良くじゃれ合う姿は本当に微笑ましいものでした。優しくおっとり～ちょっとおバカなエトと、好奇心旺盛でやんちゃ娘のアムとのコンビもぴったりだったのでしょうか！アムはケージに前足をかけてカンガルーみたいにアピール、ずんぐりむっくりエトはアムの足元でジタバタしてる有り様はとっても笑える光景でした！

今エトとアムが住んでいたケージのところには、二つの骨壺が置いてあります。そう...2匹とも天国の住人となってしまったのです。アムは一昨年夏にペットホテルで突然死で、エトはこの24日に老衰で亡くなりました。アムの最期の後悔がずっと胸にあって、今回エトの最期の半日あまりを抱っこして家族で撫でてあげながら看取ることができたこと...天国のアムが計らってくれたように思えます。コロナ罹患のために、最期の別れの時を傍にいて触れ合うことのできなかった世界中の方々の深い哀しみに想いを馳せずにはおれません。2匹を一番可愛がってくれたのは次男でした。アムの時は一人暮らしをしていた神奈川から駆けつけ最期のお見送りを共にできましたが、今回は緊急事態宣言中の為に駆けつけることができずスマホで実況中継をしました。

エト（享年17歳）とアム（享年15歳）との数々の思い出はとても書ききれません。告白すると私は良い飼い主ではなかったことを認めます。3人の子育てと家事と仕事に追われ、我が子と同じようには2匹と関わるゆとりがありませんでした。それでも、エトとアムは与えられた我が家の環境で、何の不満も言わずに、生きることそのものを精一杯享受していたのだなああと、感謝でいっぱいです。我が子だといつ期待してしまう、やれ勉強しなさい！やれお利口にしなさい！やれお行儀良くしなさい！やれ片付けなさい！やれ手伝いなさい！などの要求が出ないで済むワンちゃんだったからこそ、ただそこで生きていくことの奇跡、ただ目の前に存在していることの重みが、どれほど尊く、価値高く、素晴らしいことであるのかを教えてくれたように思います。奇しくも今、コロナウイルスの猛威により私たちの命・存在を脅かされる危機的な状況となったからこそ、この真理について「目覚めなさい！」と呼びかけられているように思えてなりません。

今はきっとエトとアムは天国でいっぱいじゃれ合っていることなのでしょう。生きているうちにもっともっと命・存在を慈しんであげたらよかった！本当に有難う...そんな想いで綴りました。